

**はじめに**

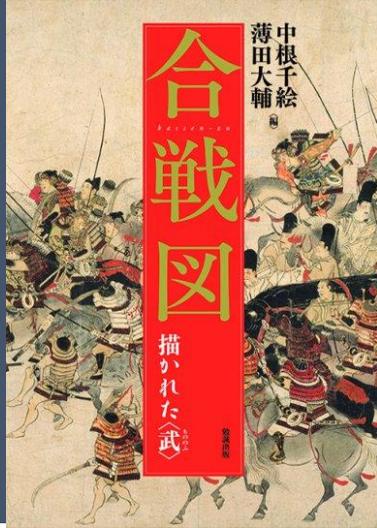
講師自己紹介 1



- 小助川 元太(こすけがわ がんた)
- 専門分野…**日本古典文学**  
(中世の**軍記物語・説話**など)
- 近著の紹介1
- **小助川・橋本編『室町前期の文化・社会・宗教』(2021 勉誠出版)**
- 作品としての『三国伝記』を再評価し、同時に、周辺作品や同時代資料から窺えるこの時代の人々の国際感覚や、彼らの置かれていた宗教的環境、社会的状況や文化的状況などを照らし出し、『三国伝記』という作品が生まれた室町前期という時代を捉え直す。
- (編集・前書き・論文担当)

## はじめに

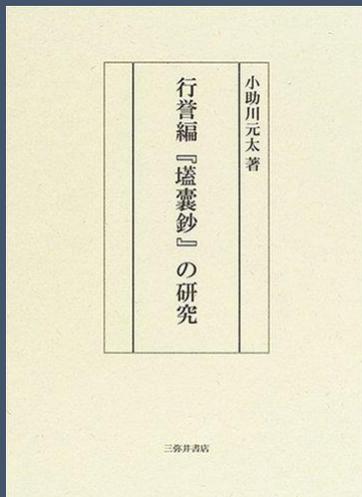
### 講師自己紹介 2



- 近著の紹介2
- 中根・薄田編『合戦図―描かれた〈武〉―』（2021年 勉誠出版）
- 「河野本「源平合戦図屏風」に描かれた『平家物語』執筆（源平合戦図屏風に現れた能の影響）について指摘
- 略歴
- 立命館大学大学院修士課程修了後、札幌の私立中学校高等学校に勤務。その後退職して立命館大学大学院博士課程に進学。修了後は国立呉工業高等専門学校で勤務。2010年に愛媛大学教育学部に着任。
- 専任・非常勤を含めて18年間国語の教師として中・高・高専の教壇に立つ。
- 2016年4月から2020年3月まで教育学部附属中学校校長を兼務。2020年4月より教育学部学部長

## はじめに

### 講師自己紹介 3



- 単著『行誉編『塙囊抄』の研究』（2006年、三弥井書店）※博士論文を中心にまとめたもの。
- 大学院生時代に天理大学附属天理図書館で、『塙囊抄』編者の行誉が書写（改作）した『梅松論』を閲覧。
- 600年前の人の書いたものに直に接する感動を覚える。
- 貴重文庫での調査が楽しくなる。
- 愛媛大学に奉職して、国文学研究資料館地域資料調査員として、愛媛大学鈴鹿文庫・愛媛県立図書館・大洲矢野玄道文庫・宇和島伊達文化保存会・土佐山内文庫などの文庫調査に携わる。

## 1. 愛媛大学鈴鹿文庫とは

- ・愛媛大学鈴鹿文庫
- ・愛媛大学の鈴鹿文庫は、**鈴鹿三七(1888-1967)の旧蔵書**を中心とした文庫。三七の没後、**夫人が元愛媛大学図書館長、井手淳二郎氏の令妹**に当たるという縁で、その蔵書が本学に一括購入(一部寄贈)されることになり、これを「(愛媛大学)鈴鹿文庫」と称することとなった。収集された蔵書内容は、内容は神道・和歌・物語・書誌学など多岐にわたり、**総数7,432点**である。
- ・鈴鹿氏
- ・京都吉田神楽岡の**吉田神社の旧社家の一氏**。吉田神社預であったト部吉田氏のもとにあって、同社権預・祝・雑掌など諸職につき、また吉田神道のなかにおいて、**吉田氏の家老的役割を果たしていた**。(中略)また、吉田家にならって、**古典書写伝来の家としての功績がみられ**、また一族中に『神社叢録』を著した**鈴鹿連胤(一七九五―一八七〇)のごとき神道学者・国学者**も出た。(『国史大事典』)

## 2. 鈴鹿文庫とは

### ①大和文華館所蔵鈴鹿文庫

総数1119点。鈴鹿義一氏所蔵の書籍が巷間に流出し、その大部分を近畿日本鉄道が購入。同社『編纂室蔵書目録』(昭和21年5月)に記載された。後に昭和36年に大和文華館へ移管されるが、神道部類などがその時点で散逸している。

### ②愛媛大学所蔵鈴鹿文庫

### ③京都大学所蔵 鈴鹿本『今昔物語集』

鈴鹿連胤が所有していた『今昔物語集』。最善本として知られている。三七の紹介により広く知られるようになった。平成3年10月に鈴鹿家より京都大学附属図書館に寄贈され、修復の後、平成8年6月に国宝に指定された。

## 2. 鈴鹿文庫とは

### ③京都大学所蔵 鈴鹿本『今昔物語集』について

現存する今昔物語最古の写本である。現存写本は六十本を超えるが、一二の系統不明のものを除けば、すべて鈴鹿本が祖本とされている。「今(ハ)昔」で始まり、「トナム語り伝へタルコトヤ」で結ぶことを原則としていることから、個々の説話が独立した「今(ハ)昔(ノ)物語」であり、『今昔物語集』は、それを集めた作品という意味合をもつ。

(京都大学資料デジタルアーカイブより)

<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00000125#?c=0&m=0&s=0&cv=0&r=0&xywh=-2138%2C-114%2C7347%2C2275>

## 2. 鈴鹿文庫とは

### ④鈴鹿義鯨旧蔵書

### ⑤明治大学刑事博物館所蔵 吉田神社鈴鹿家文書

### ⑥鈴鹿長雄所蔵資料

平成17年12月皇學館大学に寄託

### ⑦その他

国会図書館に連胤旧蔵『榻鳴暁筆』あり。

(参考)福田安典氏「古典書写伝来の「家」—鈴鹿文庫—」(基盤研究(B))「家」の後継者育成に関する歴史学的研究」(18H00979 代表:鈴木理恵)中間報告書、2018年9月)

### 3. 鈴鹿連胤と鈴鹿三七

- 鈴鹿家は京都市の吉田神社の社家として、中世以降ト部神道の伝統を継承してきた。鈴鹿連胤(1795-1871)は、家職の傍ら、**国学者、神道学者、歌人**として活躍した。現存する『今昔物語集』諸写本の祖本として有名な**国宝『鈴鹿本今昔物語』(京都大学蔵)**は連胤の旧蔵本である。また、日本最古の辞書『新撰字鏡』を探求し、これを世に紹介した。連胤とその後裔は、**文学関係者と交渉が深く**、香川景樹・小沢蘆庵などとも交渉があり、**伊予の国学者矢野玄道**もしばしば鈴鹿家を訪れている。
- 連胤から四代目の**鈴鹿三七(1888-1967)**は、**京都大学で国文学を専攻**したが、**曾祖父**の蔵書を受け継ぎ、自らも**書誌学者**として、大谷大学、ノートルダム清心女子大学、神宮皇学館大学教授を歴任した。その業績としては、三七の恩師の名で刊行された吉沢義則著『日本古刊書目』(1933年、帝都出版社)が有名だが、他にも『水鏡』(1938年、貴重図書影本刊行会)『古語拾遺 嘉禄本』(1941年、便利堂)、『勅板集影』(1930年、小林写真製版所出版部)、『北村季吟著作集』(1962年、北村季吟大人遺著刊行会)などがある。昭和42年(1967)、79歳で没した。

### 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特徴

1. 神道・国史関係では、ト部神道の家系なるがゆえに質量ともに揃い、「日本書紀」の写本や板本は特筆に値する。「古語拾遺」「中臣祓」しかり。「日次紀事」は天下の孤本として貴重である。
  2. 和歌関係では、連胤らと親交のあった香川景樹や小沢蘆庵らの自筆歌集をはじめ、板本も明治以降の歌集なども豊富。
  3. 物語・小説・日記随筆類としては、源氏物語・方丈記・近世小説などの写本や板本をはじめ、注釈書や複製本も多い。
  4. 書誌学関係では、旧蔵者の専門なので、基本的かつ精選された文献を収め、本人が各資料にその伝来や関係資料を付している点、今後の研究に役立つ。
  5. その他、国語学・外国語訳日本文学・書画・伝記・地誌のほか雑書類や、矢野玄道ら伊予の学者の写本類もあって、今後の研究に待つべきものも多い。
- (小泉道氏「鈴鹿文庫」の設置について—故鈴鹿三七氏蔵書が図書館へ—、『図書館だより』第4号、1978年3月)

#### 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特徴

##### 天治本『新撰字鏡』 写本5冊(篇立、巻1、巻2、巻4、巻12)

『新撰字鏡』は昌住撰の12巻の漢和辞書。10世紀初頭に成立し、漢字を部首で分類、その発音や意味を和訓(万葉がな)で説明するという現存最古の辞書で、3000語以上を載せている。抄録本などは見つけていたが、長らく完本が確認できなかった。

幕末になって、その天治年間の写本のうちの巻2と巻4を連胤が見つけたことから一気に『新撰字鏡』の研究熱が巻き起こる。後に連胤が残り10巻の所有者を見つけて全容が判明した。明治13年に帝室博物館にまとめて寄贈された。

鈴鹿文庫本は、端本5冊(篇立、巻1、2、4、12)で、「尚褻舎蔵」の印が捺されており、連胤の手による書写である。

#### 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特徴

明治13年に内務省から『新撰字鏡』2冊を献上したことを讃える鈴鹿義鯨(三七の父)宛て有印文書も付されている。すなわち内務省(帝室博物館)に献上する前に作成された副本が本書である。

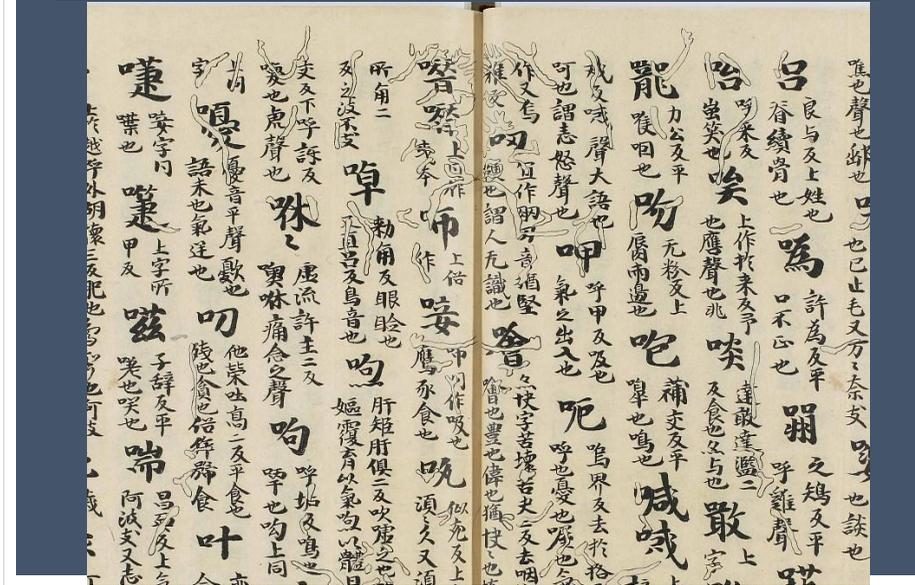
安政年間の副本だからといって看過してはならない。文字の配置、虫損の跡までを正確に複写するその職人芸には「古典書写伝来の家」と称される面目躍如が見られるであろう。

大和文華館鈴鹿文庫にも尚褻舎印が捺されている巻2と巻4があり、連胤作成の副本であるが、原本を忠実に複写したのは愛媛大学図書館本である。

本書は長く昭和写本として等閑視されてきたが、今回の展示のための調査で連胤作成の副本であることが確認された。(平成30年度日本近世文学会秋季大会開催記念企画「愛媛大学図書館 鈴鹿文庫貴重書展」解説より※文責:福田安典氏)



## 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特色

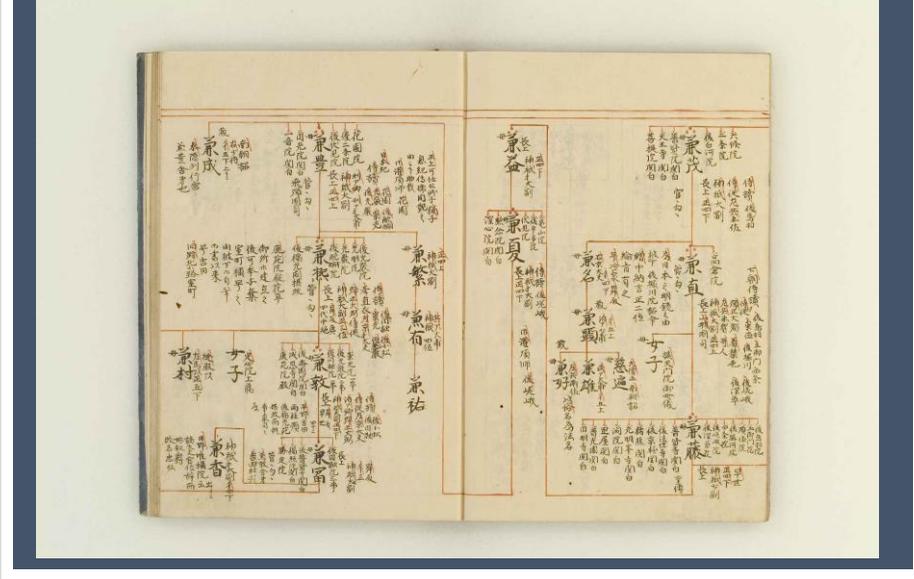


## 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特色

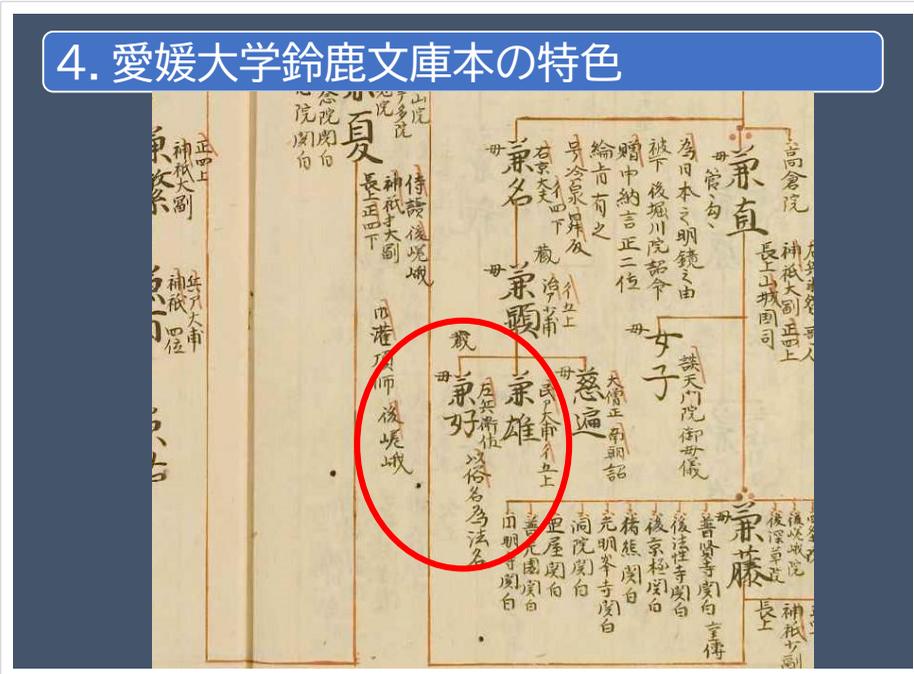
### 『唯一神道名法要集』 写本1冊

鈴鹿三七は、「一異本として資料なり 書込また有用也」とメモしている。享保9年宣桓書写。本書は平安時代の卜部兼延の著述の体裁を取るが兼俱の著述であろう。吉田神道が唯一神道であることを問答体で記述したもの。「唯受一流血脈」として吉田家の系図を記すが、そこに『徒然草』作者の兼好をそっとしのばせた疑惑が、近年小川剛生氏によって提出された。小川氏の著書『兼好法師 徒然草に記されなかった真実』（中公新書、2017年）に図版として使用されたのが本書で、本書には兼俱の「捏造」とも言うべき跡がはっきり認められている。（平成30年度日本近世文学会秋季大会開催記念企画「愛媛大学図書館 鈴鹿文庫貴重書展」解説より※文責：福田安典氏）

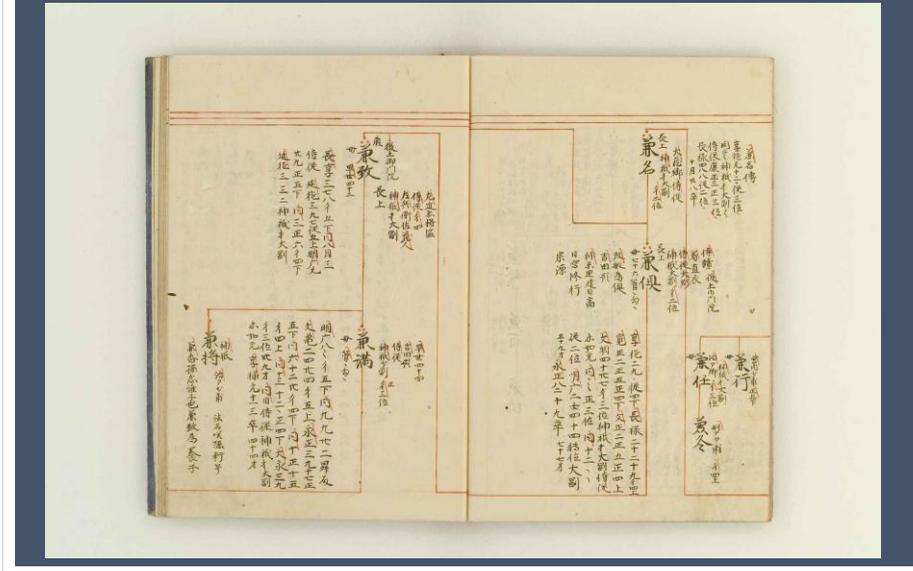
### 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特色



### 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特色



## 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特色



## 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特色

### 『大和物語』(913/Su14)

1冊。白茶色地に上青下茶の打雲表紙。26.0cm×19.9cm。  
 外題「大和物語」(題簽なし。左上に墨書直書)  
 本文楮紙。袋綴。全104丁。箱あり。  
 書写年代不明(室町時代以降か)

現存『大和物語』諸本は大きく分けると、第一類・第二類・第三類の三系統になるが、ほとんどの写本が第一類系統に属する。

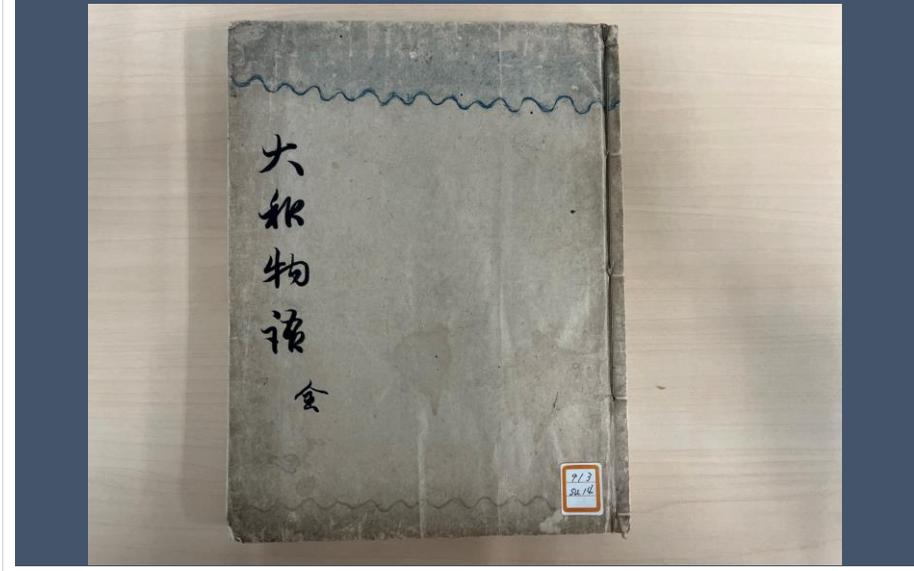
(中略)

### 第二類系統(P系統)

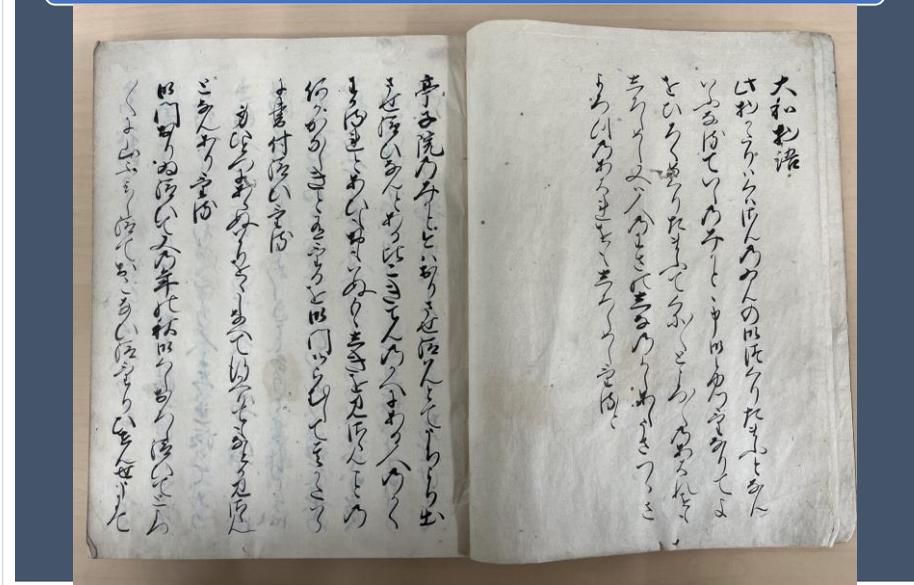
天理大学附属天理図書館所蔵御巫氏旧蔵本・愛媛大学附属図書館所蔵鈴鹿三七氏旧蔵本の二本のみである。独自共通異文の数はおびただしいが、もっとも大きな所は百七十二段と百七十三段の間に平中説話九段(平中物語十九段から二十七段相当)がはいり、百七十三段のあと、「此物語は花山院御作なりと本にあり」とある次に、百六十九段が移されていることである。

(新編日本古典文学全集『竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』解説)

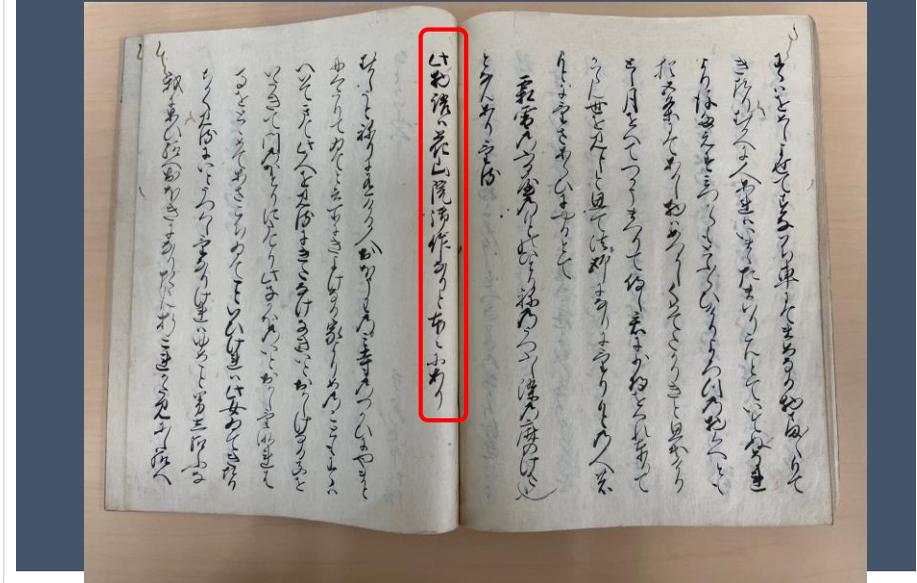
#### 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特色



#### 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特色



#### 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特色



#### 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特色

##### 『住吉物語』(913/Su13)※奈良絵本未完成本

表紙共紙。外題内題ともなし。縦30.0cm×横22.5cm。袋綴の仮綴。本文料紙は斐紙。全83丁。うち挿絵が入る予定の白紙が25面。なお、挿絵貼付予定部分の前の丁の文字は、奈良絵本や奈良絵巻によく見られるような散らし書きとなっている。

なお、袋に以下の文が書かれている。

此の一冊は住吉物語にして奈良絵本として／写されたるもの也 未だ挿絵成らず 未／完のまゝ傳へられたり 奈良絵本完成の／経過を見るの一資料たり

○三識

また、以下の折紙あり。

(又云多和文庫蔵本(西順字／延宝写)も口と同文也※)※朱書き  
このすみよし物かたりは／横山重氏編住吉物語本文篇／所収の藤井乙男博士○○(旧蔵?)本／と同じ本といふと傳へし／その異同殆どなし

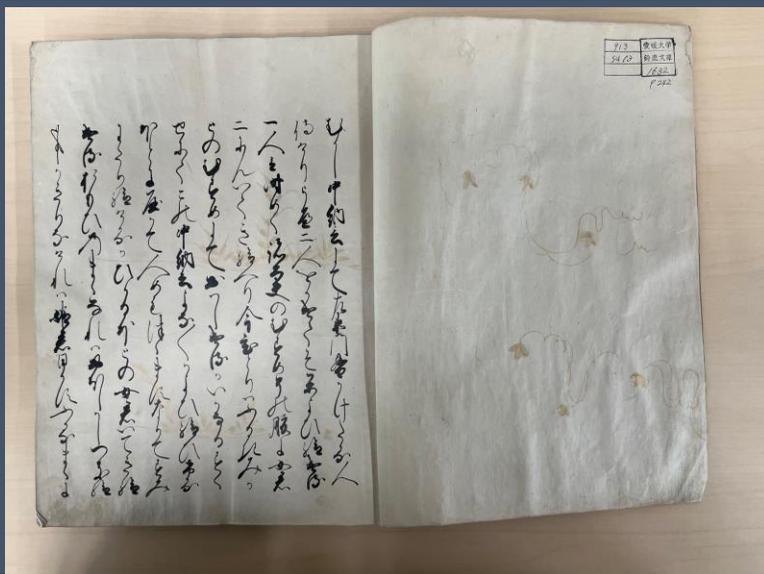
○一識

昭和廿六年八月二十一日

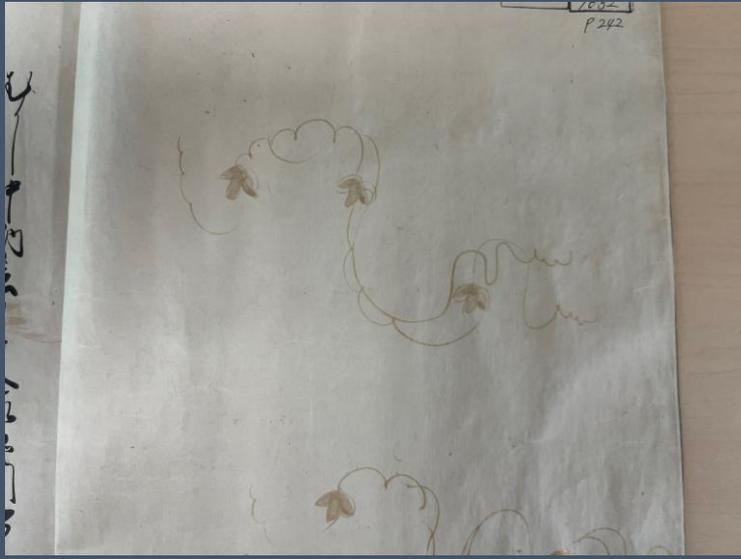
#### 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特色



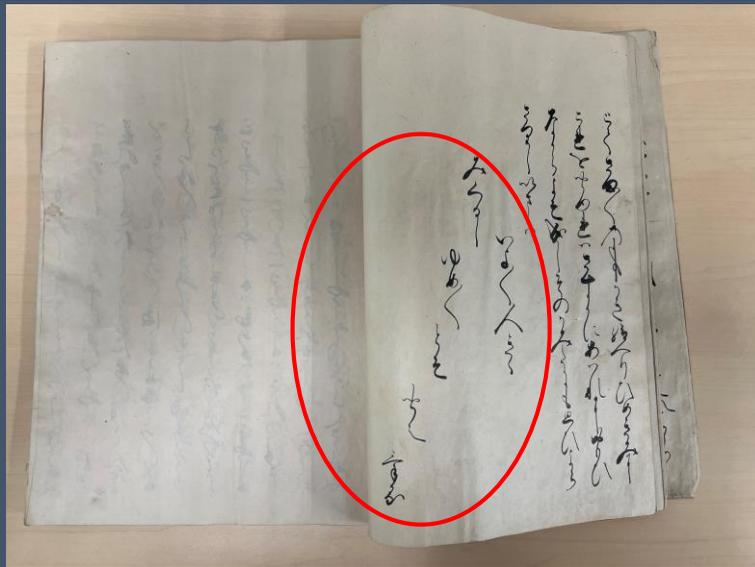
#### 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特色



#### 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特徴



#### 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特徴





#### 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特色

##### 『水鏡』(913/Su/17)

写本1冊 柘花色無地表紙 27.5cm×19.0cm

外題「水鏡」(左上・題簽)

本文楮紙 袋綴 全92丁

書写者不明

書写年代:永正9年(1512)以降

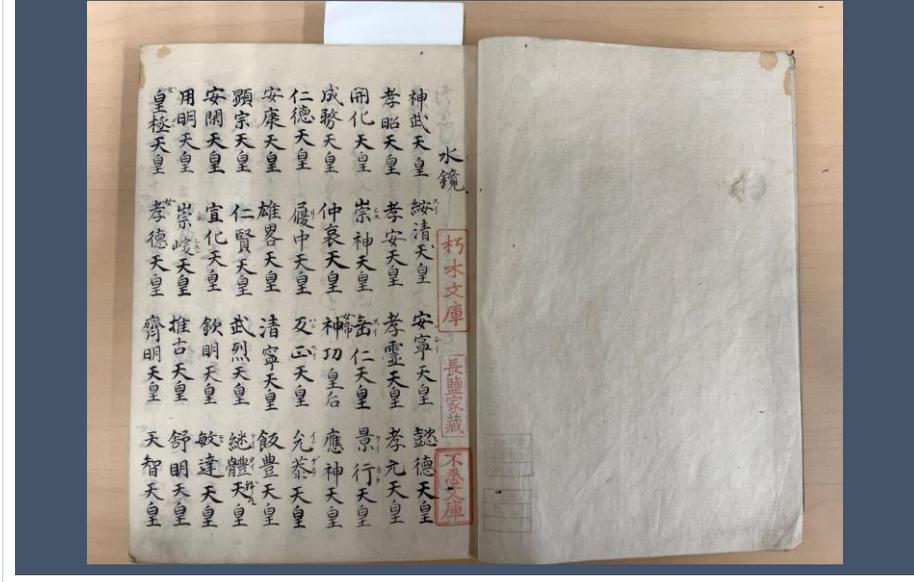
屋代弘賢(1758-1841)旧蔵本。「朽木文庫」「長鹽家蔵」「不忍文庫」の蔵書印あり

「永正第九後四月十六日 古槐散木判」の奥書を持つ永正本系統本。同系統のものに、宮内庁書陵部所蔵桂宮本、宮内庁書陵部所蔵谷森家本、静嘉堂文庫所蔵本、旧真田家所蔵本、九州大学附属図書館萩野文庫所蔵本がある

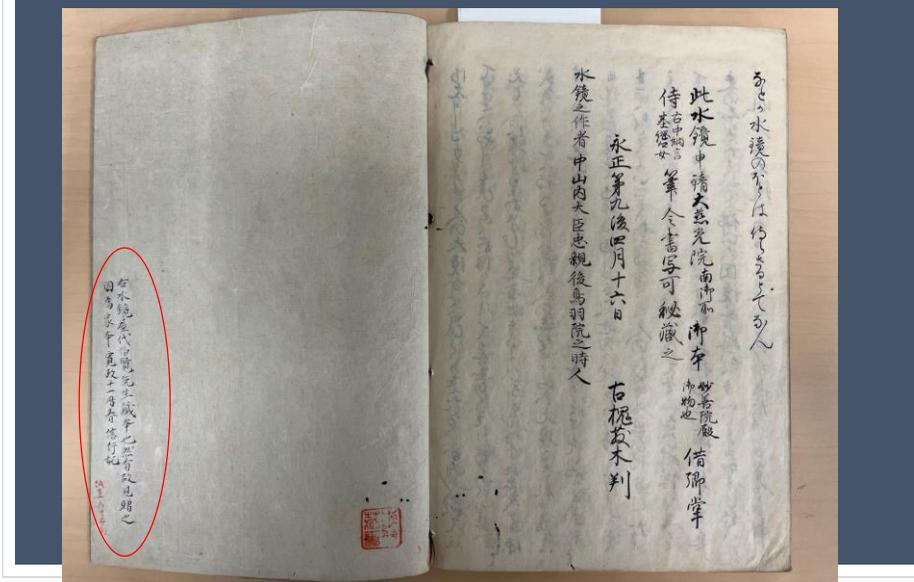
#### 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特色



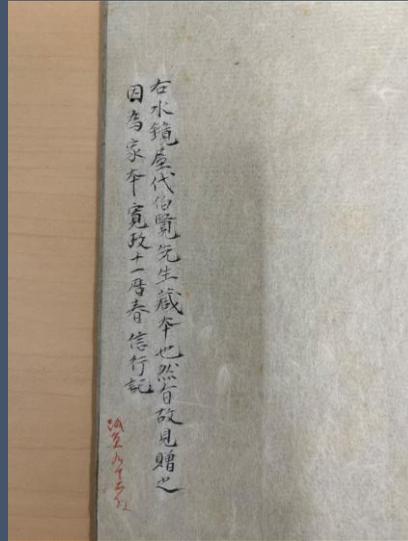
### 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特徴



### 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特徴



#### 4. 愛媛大学鈴鹿文庫本の特徴



#### 5. 奇跡の里帰り—鈴鹿文庫と愛媛松山の縁—

鈴鹿文庫本『式子内親王家集』

内山直枝が所持し、しかも注釈を施したテキストを、麻田照道が書写したもの。

○内山直枝

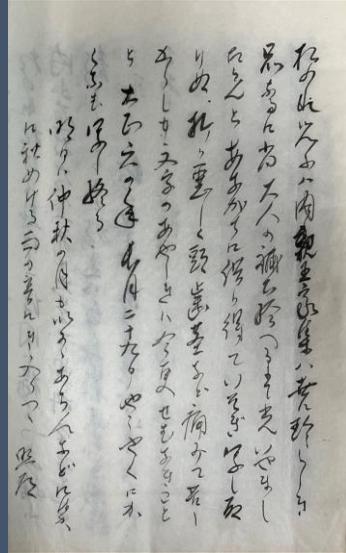
- ・『国学者伝記集成』「佐々木弘綱」の項目に、門人として「伊豫松山 内山直枝」とある。(武井和人氏『校本式子内親王家集』解説篇)
- ・愛媛県立図書館「内山家文書目録」より、内山直枝が『和名類聚抄』二〇巻を書写していたことがうかがえる。
- ・『黎明期の歴史学』(二松学舎大学 歴史文化学科 開設記念展示)によれば、東京帝国大学古典講習科卒業生名簿の国書課前期生二九人の中に、内山直枝の名前がある。
- ・『明治十六年事件退学者名簿』の「丙第七拾號」(明治十七年五月二十四日)に「古典講習科」として「愛媛縣士族 内山直枝」の名がある。



5. 奇跡の里帰り—鈴鹿文庫と愛媛松山の縁—

おのれ思ふは、内親王家集は世に珍らしき品なるに、尚大人の補ひ給へるは、光いやましたらんと、あながちに借り得て、いそぎ写し取りぬ。折り悪しく頭齒莖など痛みて苦しかりしも、文字のあやしきは今更せむなきことと、大正六の年長月二十九日、やうやくにかなむ写し終る。

明日は仲秋の月もいかゝあらんなど、にはかに秋めける雨の音にきゝ入りつゝ、 照道



5. 奇跡の里帰り—鈴鹿文庫と愛媛松山の縁—

就任年月	受持学科	職別	勤続	姓名
三六 正月 十五日	英語身	校長	二年 一ヶ月	加藤彰彦
四〇 四月 八日	修身	主任	十一年	小川達造
四九 正月 八日	英語	兼主任	八年 七ヶ月	重信市太郎
五〇 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
五二 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
五三 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
五四 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
五五 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
五六 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
五七 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
五八 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
五九 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
六〇 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
六一 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
六二 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
六三 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
六四 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
六五 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
六六 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
六七 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
六八 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
六九 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
七〇 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
七一 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
七二 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
七三 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
七四 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
七五 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
七六 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
七七 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
七八 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
七九 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
八〇 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
八一年 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
八二年 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
八三年 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
八四年 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
八五年 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
八六年 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
八七年 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
八八年 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
八九年 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
九〇 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
九一年 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
九二年 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
九三年 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
九四年 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
九五年 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
九六年 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
九七年 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
九八年 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎
九九年 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	小野圭次郎
一〇〇 正月 八日	英語	兼主任	四年 十一月	重信市太郎

『私立北豫中学校一覽』(大正七く一九一八年)「現在職員(大正六年三月三十一日調)」に、「国語」「教諭」として内山直枝の名が、また、「国漢文」「教諭」として麻田照道の名が見える。

一四、現在職員

三前二項ニ屬セザル物件ハ翌日監務係ニ引継タベシ

第六條 當直中ノ取扱事件ハ細大之ヲ當直日誌ニ記載シ翌日誌ヲ校長ニ差出シ保管品ハ之ヲ交代者ニ引継タベシ

第七條 前數項ノ外臨時事件ノ發生シタルハ其輕キ者ハ當直者ニ於テ便宜之ヲ處分シ其重ナルモノハ校長ノ指揮ヲ受ケ之ヲ處分ス

## おわりに—地方国立大学の貴重文庫として—

### 6-1. 国立大学所蔵の貴重文庫

(例)熊本大学永青文庫研究センター

岡山大学池田家文庫

東北大学狩野文庫

### 6-2. 大学管理のメリット

・**学術目的の利用に寛容**(ただし例外もあり)

→財団・個人蔵の場合、閲覧・利用が所蔵者の意向による

・大学教員という研究者がいること

→所属大学教員によって学術的な調査・研究が行われる

・展示等が行われ、一般にもその存在を知ってもらえる

## おわりに—地方国立大学の貴重文庫として—

### 6-3. 将来への懸念

・景気悪化、少子化問題

・理系・実学系重視の風潮



・大学再編・規模縮小による研究者の減少

・予算削減による図書館管理へのしわ寄せ

・図書館の保管スペースの限界



・資料は**実物から得られる情報が非常に重要**

・古典籍の場合、同じものが残っていることはまれであり、ましてや写本の場合、ほかの文化財同様**一度なくなってしまうと、永遠に失われてしまう**